特集／木村 敏文 坂東市長 3期就任インタビュー

広告　企画・制作　建設未来通信社広告部

坂東ＰＡや工業団地など推進

～「みんなでつくる」市民のためのまちづくり～

民間事業者公募の準備

ハイウェイ・オアシス事業

2017年の市長選で初当選し、このたび3期目当選を果たした木村敏文市長。市民の声に耳を傾け、慎重ながら着実に事業を進めてきた。県と共同で進めるフロンティアパーク坂東や、坂東ＰＡと都市公園を一体的に整備するハイウェイ・オアシス事業など、市の発展に大きく貢献する事業を、今後も推し進めていく。2期8年間で積み重ねてきた経験を生かし、市民のためのまちづくりに取り組む木村市長の思いを聞いた。

◆市民の声に寄り添う市政

市長就任当初は財政的に厳しく、現在も地方債における現在高比率では、坂東市は44市町村中37位に位置しているが、市長就任後から、これまで、ピーク時から約74億円の債務残高を減らしてきた。今後も財政的な安全を確かめながら、慎重に事業を進めていきたい。

市民の声に寄り添う市政運営を期待されていると思うので、当初から掲げてきた「みんなでつくるまちづくり」のキャッチコピーを胸に、今後も市民の皆さまに持ち寄っていただいた意見をもとにした施策を進めていく。

◆順調に進む工業団地整備

就任当時、すでに事業が進んでいた工業団地への企業立地を推進した。有難いことに、比較的短期間で市内3つ目の工業団地である坂東インター工業団地も完売になった。

現在、県と共同で進める事業として、フロンティアパーク坂東の造成に着手したところ。今は企業誘致をしながら、造成工事を進めている。市としては、幹線道路の整備や上水道の配管整備工事なども実施している。

フロンティアパーク坂東では、2社の立地が決定した。問い合わせも随分あると聞いている。県開発公社と市でインフラ工事などの発注を進めているので、少しずつ形になってきている。

◆新工業団地検討も慎重に

新たな工業団地についても、現在検討しているところ。フロンティアパーク坂東の今後の推移を見つつ、慎重に進めていく。

茨城県の過去10年間の企業立地面積、県外企業立地件数は全国第1位を続けていて、県全体としてもポテンシャルは高いが、世界規模で経済の動向が不安定なこともあり、楽観視して進むことはできない。

経済は生き物と同じ。その時の状況によって一時足踏み状態になることもあるかもしれないので、まずはフロンティアパーク坂東の企業誘致に万全を期していく。

◆新たな施設で観光誘客

坂東パーキングエリアと都市公園を一体的に整備するハイウェイ・オアシス整備事業では、昨年10月にローソンがオープンした。コンビニとしての機能だけではなく、市の名産品などの販売もしていただいている。また、坂東市情報コーナーも設置しているため、市の観光誘客などにも効果が出るような場となっている。

ハイウェイ・オアシスを拠点に、市内を周遊してもらえるような仕組みができれば。4月にオープンした産業経済交流施設「坂東将門の里」にもサイクルマップ等を置いている。こうした新たな施設に、観光の窓口としての機能も担ってもらいたい。

◆民間事業者公募も視野に

坂東ＰＡの外回り側では、現在東日本高速道路㈱により、駐車場やお手洗い、商業施設などの整備を進めている。今後、外回りから内回り側のハイウェイ・オアシスへ行き来できる連結路も整備していく予定。

ハイウェイ・オアシス整備事業において、今は地盤改良や造成事業などを進めているところ。整備予定の複合施設は、ぜひ民間事業者の力もお借りしたい。飲食店などの機能を想定しており、観光の目的地にしてもらえる施設も目指せれば。事業者の公募に向けた準備も進めている。

また、計画当初から防災施設の整備も検討している。圏央道周辺は、常総市や境町方面も含めて低地が多く、水害の心配が多い。計画地が高台という立地を活かし、構想段階ではあるが、ヘリポートや防災倉庫など、地域の防災力を高めるための防災機能について今後検討を進めていく。

学校空調整備も着実に実行

◆庁舎跡地で複合施設検討

旧猿島庁舎の解体跡地の利活用については、複合施設の整備を検討する。基本として、窓口機能は備える予定。周辺には体育館や福祉センター、公民館などがあり、それらの中核となる場所に地域のコミュニティセンターのようなものがあれば、という意見も出ている。

今は「坂東市地域複合施設建設検討委員会」を立ち上げ、色々な意見を出していただいているところ。窓口機能に加え、地域の皆さまの意見を聞きつつ、子育て支援の機能を中心に多様な行政サービスが提供できるよう進めていく。地域の声を聞き、要望に合ったものを整備できればと考えている。

◆屋体空調整備は3年計画

昨年度までに、岩井第一小学校の体育館の建て替え工事を進めた。その際、猛暑対策として、市内の学校体育館としては初めて空調を整備した。今後も、学校体育館の大規模改修および空調の整備を進めていきたい。

空調整備は本年度を初年度とし、3年計画で進めていく。全17校のうち、残るは16校。

本年度は弓馬田小学校体育館大規模改造及び空調設備工事と、9校分の設計を進め、来年度の着工を目指す。このうち大規模改修工事を含む学校は2校、空調整備のみの学校は7校を想定。来年度には残る6校分の設計を行い、令和9年度にも着工する。

また、県内各地では小中学校の統廃合という話も出ている。坂東市では、機運が高まれば児童生徒の目線に立って、慎重に進めていくべきだと考えている。

◆地元業者の強み生かして

フロンティアパーク坂東の開発など、地元で大きな事業を進める時には地元業者の活躍が不可欠。県にも、ぜひ地元業者の活用を積極的に視野に入れてほしいと話をしている。

地元の建設業者は、地元のことに精通していることが一番の強み。そのような方々に協力していただけると、事業がスムーズに進むので大変心強い。

災害などの復旧活動にも尽力していただいている。市のお祭り等イベントなどの際にもご協力いただいている。

市民からの要望が多い生活道路の改良などについても、計画的に順次進めていく。地元業者の発展が市の発展にもつながるので、これからも地元の事業はできる限り市内業者にお願いしていきたい。

◆プロフィール◆

木村 敏文（きむら・としふみ）　1956年1月1日生まれの69歳。明治学院大学法学部を卒業。2001年に猿島町議会議員に就任。17年3月まで坂東市議会議員を勤め、同年4月の市長選挙にて初当選となった。休日はゴルフなどで汗をかきながら和やかに過ごす。孫と一緒に食事に行くことで、気持ちをリフレッシュするとのこと。

ハイウェイ・オアシス全体計画・イメージパース

私たちは郷土の発展に貢献しています

ばんどう建設業協会

会長　飯田俊美
副会長　松本竜也　副会長　逆井秀敏
会計　間中一吉　監事　岡野利雄　監事　野口孝市
理事　古谷雄樹　理事　真中　聡　理事　武井俊一　理事　中村裕之

小林建設㈱　㈱岩井造園土木　逆井土建㈲　㈲西部建設工業　島田工業㈱
㈲関建設興業　㈲丸カ土木建材興業　㈲明正工業　㈱坂巻工業　㈱S・Kプランニング
武井鉄工建設㈱　岩仲建設㈱　㈱カノヤ　㈱幸上土木　㈱中山工業
㈲中山造園土木　㈱タカダ　野口工業㈲　㈱中村組
㈱石塚建設　㈱のぐち　㈲猿島ガーデン　㈱俊光建設
㈲マナカテクニカ　古谷建設㈱　㈲板垣造園　堀越造園㈱

（順不同）